

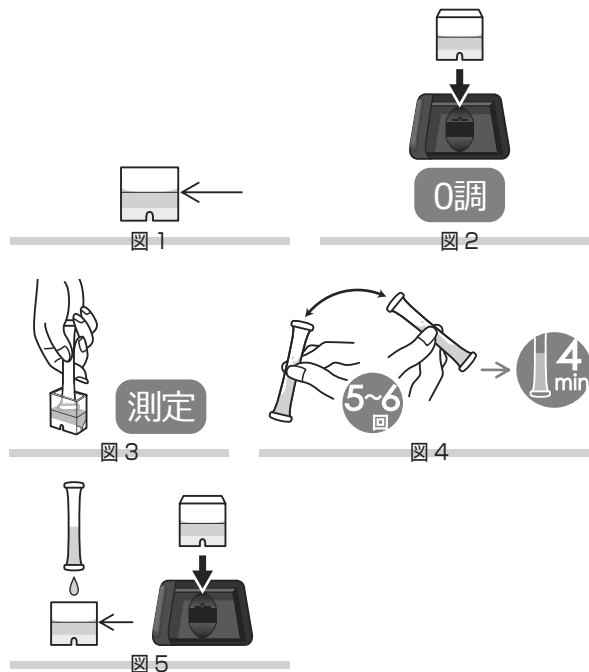
NO₂-N-C 亜硝酸態窒素（高濃度）

発色：無色→淡黄→赤褐色
測定原理：グリース変法
測定範囲：1.0～30.0 mg/L (ppm)
試薬：WAK-NO₂ (C) チューブ
測定時間：チューブに吸い込み後5分

セル：専用カップ
使用波長：560 nm

測定方法

- 1.【NO₂-N-C】を押します。
- 2.【決定】押し、測定画面に切替えます。
3. 検水を、専用カップに1.5mL(線まで)採ります。(図1)
4. 専用カップをセルボックスに入れ、【0調】を押します。(図2)
5. パックテストのチューブに、専用カップの検水を全量吸い込み、同時に【測定】を押します。(図3)
6. 5.のチューブを軽く5～6回振り混ぜて、そのまま約4分間反応を待ちます。(図4)
7. カウントダウンが1分を切ったら、専用カップにチューブ内の測定液を静かに戻し、セルボックスに再びセットし静置します。(図5)
8. 経過5分後に濃度が自動表示されます。



注意

1. 発色時の最適 pH は3 です。pH が2～9 の範囲をこえる検水は希水酸化ナトリウム溶液または希硫酸等で中和してから測定してください。
2. 検水の温度は15～30℃で測定してください。
3. このパックテストでは、気泡が多量に発生しますのでご注意ください。カップ内壁に気泡などが付着した場合には、専用カップを指ではじくなどして、できる限り取り除いてください。

共存物質の影響

内蔵の検量線は、標準液を用いて作成しています。他の物質の影響が考えられる場合は、公定法と比較するか、標準液添加法により測定値を確認してください。

右表は、標準液に単一の物質を添加した場合の測定値への影響データです。

海水は影響しません。

一般に、亜硝酸態窒素は、残留塩素等の酸化性物質とは共存しませんが、亜硝酸態窒素が存在しなくても残留塩素およびクロロアミン類が存在すると発色して亜硝酸と誤認する場合があります。

重金属以外：	
100mg/L以下は影響しない	…B ³⁺ (ほう酸)、Ca ²⁺ 、Cl ⁻ 、F ⁻ 、I ⁻ 、K ⁺ 、Mg ²⁺ 、Na ⁺ 、NO ₃ ⁻ 、PO ₄ ³⁻ 、SO ₄ ²⁻ 、陰イオン界面活性剤、フェノール
50mg/L //	…NH ₄ ⁺
5mg/L //	…残留塩素
重金属等：	
10mg/L以下は影響しない	…Al ³⁺ 、Ba ²⁺ 、CN ⁻ 、Co ²⁺ 、Cr ³⁺ 、Cu ²⁺ 、Fe ²⁺ 、Fe ³⁺ 、Mn ²⁺ 、Mo ⁶⁺ (モリブデン酸)、Ni ²⁺ 、Zn ²⁺
1mg/L //	…Cr ⁶⁺ (クロム酸)

試薬に関するお知らせ

パックテストに付属の使用法をご参照ください。

測定液は約 pH3 です。